

2019年度 児童部門 事業報告

藤枝市職員を交えての会議を定期的で開催し、次年度に向けて、児童の定員・受け入れ人数の検討、収入分析を行なった。また、改めて“インクルージョン”に視点を向け直し、異年齢活動など具体的な取り組み内容の検討、他法人の施設見学を行なった。そのうえで、職員の適正配置を検討し、職員の意識向上、質の高いサービスの提供を図った。

働き方改革では、定時退社、有給休暇取得の推進を行なう中で業務の効率化を図った。

1 重点取り組み項目

(1) ガゼルの森の再構築、インクルージョンの推進

- ・充実した支援・保育を基盤にした、ガゼルの森インクルージョンの取り組みの充実
- ・一人ひとりに合わせたフォロー体制の確立と支援の充実
- ・専門職チームによる、積極的な保育、療育への関わり
- ・支援・保育の枠組みを超えた全体での職員配置
- ・専門職を含めた各会議の充実
- ・合同研修会の実施、職員の共通理解
- ・適切な利用定員、受入人数の検討、設定、行政機関との調整

ガゼルの森として、インクルージョンを意識した視点での活動目的、ねらいの見直しを行なう中で異年齢活動を『さくらんぼ』と命名し、「みんないっしょ」をテーマにした活動を広げていった。現場職員が主体となって計画に取り組むことができ、児童も隔たりなく活動参加することができた。活動を進めていく中で、今までは児童に目が向きがちであったが、関わる職員、保護者の意識が障壁であると感じた。次年度は、異年齢交流を継続していく中で、職員の交流機会を増やし、また参観会においても異年齢交流を展開することで、特に職員並びに保護者の意識改革に取り組んでいく。

市職員も参加する主任会議を定期的で開催し、現状把握と課題の抽出、対応策を話し合ってきた。その中で、利用定員の多さにより職員がインクルージョンを成しえていないという課題も見えてきた。インクルージョンへの取り組みを積極的に行なうため対象年齢を絞る事を踏まえた適切な利用定員、受入人数の検討を行ない、市職員へも訴えかけてきたが、大幅な利用定員、受け入れ人数の調整は難しく、今後の課題となった。

保育士不足から求人活動を継続して行なっている。インターネットの活用、大学への働きかけ、職員の知り合いへの声かけなど求人活動を行なってきたが、なかなか反応がないのが現状である。その中で、3名の保育士を採用した。保育士確保は今後も課題となるため、利用定員、受け入れ人数における職員配置の定数など総合的な見地に立って検討していく。

(2) 地域支援の強化

・児童発達支援センター

療育が必要な児童を幅広く受け入れるため、様々な家庭環境にも対応できるよう、サービス提供時間（8:00～17:30）の見直しと「ドライブスルー方式」の導入を行なった。これにより、働く保護者に寄り添うことができ、登園時の負担軽減にもつながった。

2名が地域の園（保育園、幼稚園、こども園）に交流し、1名がこども園に移行することができた。また、地域の園から新たに療育支援が必要な児童の受け入れを行なうことができた。今後も引き続き、地域の園と連携を図りながら、児童の成長に応じた園交流や地域移行を充実させていく。

・親子通園、並行通園事業

月2回の主任会議を開催するなかで、子ども発達支援センター職員とも話し合うことができ、委託費を中心に現状の振り返りを行なった。委託費にも上限があり、直ちに予算を増加させることは難しいため、一部を給付に切り替えるなど様々な案も出た。今後、話し合いを継続して行ない、地域ニーズに沿った運営をしていく。

・保育所等訪問支援事業

配置職員を増やすことで、新たな加算を算定することが可能となり、事業収支を意識した運営を心がけた。また、訪問件数の増加につながり、前年度199件に対して、今年度は399件と倍増した。

今年度は個別訪問型の訪問支援を行なったが、次年度は訪問型小集団療育を検討し、業務の効率化を図る。

親子通園・並行通園事業、保育所等訪問支援事業は地域との接点が多く、また専門的視点が必要な事業ではあるが、ガゼルの森としてどのように捉え、事業展開していくかは今後も検討が必要である。

・ぱれっと、ガゼルの森相談

相談支援業務の経営状況の視点と、相談支援業務のさらなる質の向上を図るため運営を見直し、特定相談支援事業ぱれっとと障害児相談支援事業ガゼルの森との統合を図った。また、次年度の運営を見越して月1回相談業務の打ち合わせを行ない特定相談支援事業、障害児相談支援事業の情報の共有、互いの業務の進捗状況を確認するなど、統合後の業務への共通理解、運営の仕方を検討したが、より適切な事業を展開するには至らなかった。

次年度は収支の状況を考え相談支援専門員3人体制で行ない、2つの事業を分担していくこととした。相談支援専門員が積極的に互いの意見を交換し今後さらに相談支援事業を発展させていくための土台作りを行なっていく。

後期には相談支援部会において、相談支援業務の進め方の工夫や計画相談業務の事務の簡素化を検討していけるようハルモニアとして問題提起すると同時に、行政へのソーシャ

ルアクションを行なった。それを受けて相談支援部会では相談支援のための研修や事務の簡素化につながる意見交換の場などが設けられた。しかし、その一方で経営を改善するための具体的な話し合いには及ばなかった。

質の向上については打ち合わせにおいてケースの報告や、相談支援業務の気づきについて意見交換ができただけであった。

このため、次年度は支援課題が多いケースについて、事例発表を行なうなどして互いの業務を見直し相談支援専門員の個々の技術を高めていく必要がある。また法人内のサービスの質の向上につながるよう法人内の事業所との支援会議を開いていく。

・子育て支援センター（ぐるんぱの広場）、一時預かり事業の充実

子育て支援センターでは、今まで職員が中心に行なっていた「わいわいパーク」に、運動遊びやリトミック遊びの外部講師や趣味で楽器演奏を行なっているグループを呼び、内容の充実を図った。これにより、講師やボランティアとの繋がりができたため、次年度の活動計画に取り入れていく。

また育児に対する保護者の悩み、こどもの発達の相談を受けることで、児童発達支援を利用するなど早期療育につなげることができた。今後も、通園と連携を取りながらより充実した運営を行なっていく。

一時預かり事業は、職員配置を見直し、後期からではあったが2名体制にしたことで、目標としていた額の補助金を取得することが出来き、事業の採算性にも寄与できた。次年度も補助金収入が見込まれることから、適切な人員配置を視野に入れながら受け入れを含めて事業の充実を図っていく。

(3) 保護者支援

- ・保護者と連携した（を巻き込んだ）保育・療育の実践（行事への参加）
- ・ニーズを受け止め、満足できるサービスの提供
- ・園への理解を深めるための啓発活動（ホームページ・ガゼルだより・保護者講座の開催等）
- ・専門職への相談、専門職による支援の充実

支援部保護者会、保育部保護者会を統合し、「ガゼルの森保護者会」とし一本化した。しかし、実態は表面的なものとなってしまう、適切な役員数や徴収金額など内容の統合には至らなかった。

次年度に向け保護者会とも密に話し合いを行ない、保護者会の在り方のシミュレーションを通じて、保護者会の意義付けや在り方などの検討を深め、より充実した統合の実現を図っていく。

ICT を活用して日々の様子をネット上にアップすることでクラスだよりの代わりとした。紙面のものより写真が多くみられることもあって、反響はよかった。一方で、表面的な啓発にとどまり、活動の目的や具体的な内容の共有に欠けるという課題が残った。

次年度は、参観会において日ごろの取り組みをプログラムとして組み込み、より具体的な

目的、内容の共有を行なっていく。

ガゼルの森の会議に専門職職員も参加し、現場の困り感、専門職職員の専門性のすり合わせを行なった。所属を超えて実際の現場で専門職職員からもアドバイスをし、環境改善に努めるなど積極的にケース検討ができた。また、必要に応じて保護者へのフィードバックを行なった。今後も継続して会議を設け、医学的根拠も含めた療育、保育に取り組んでいく。

(4) 職員の育成

- ・職務分担表の細分化による担当の明確化及び職員育成
- ・虐待防止、健康衛生管理、危機管理に関する研修への積極的参加
- ・共通理解に向けた会議の充実

職務分担表により一部は明確になっているが、まだ不十分なところもあり業務の偏りを感じる。職務権限や人事考課の役割を踏まえて、適正な業務分担を行なっていく。

(5) 職員の働く環境づくり

- ・パソコンシステムの充実による職員の付帯作業軽減
- ・業務や役割分担の見直しによる業務の分散、軽減
- ・ノー残業、定時退社の継続
- ・有給休暇取得の推進（年 10 日間）

定時退社を目標に業務内容の実態把握に努めた。手書きの記録は PC 入力に切り替える、書式フォーマットの見直し、会議の在り方など効率化に向けて検討、改善を行なってきた。その結果、定時退社は浸透してきているが、イベントなどにより左右されることもあるため、事前に作業内容の把握することでスケジュールを立て、計画的に実行することで業務の平準化を図り、時間外勤務の削減に努めたい。

有給休暇取得に関しては、祝日を利用し、10 日を目標に取得してきた。2020 年 3 月時点で 83%であったため、次年度は 100%を目指して計画的に有給休暇取得をしていく。

ガゼルの森としての「働きやすい環境」とは何かを見出し、職員が気持ちよく働く環境を目指すとともに、新卒者に対してもガゼルの森で働きたいと思える職場環境を整備していく。

(6) 環境づくり

- ・園庭整備（植栽による木陰づくり）
- ・園内細部の修繕、環境整備
- ・玩具・教具の充実

日陰を作るための植栽に加え、パラソルを建てるなど園庭整備を進めている。一方で害虫

の発生や木が枯れてしまうなど管理の不十分さによる問題が発生した。そのため、後期は定期的な外部業者への委託も含め管理を徹底した。

ガゼルの森も8年が経過し、修繕箇所が増えてきている。今年度は庇の整備を行なった。今後とも児童の安心・安全を優先に考え、計画的に修繕していく。

事業報告の付属明細書

2019年度事業報告には事業報告の内容を補足する重要な事項がないため、事業報告の付属明細書は作成していない。